

モスクワ国際関係大学  
交換留学報告書

国際関係学部国際関係学科三年

今回留学した三か月間を振り返ってみると、様々な体験ができ、新たな価値観を身につけられて、とても有意義な時間を過ごせたと思う。この貴重な体験についてまとめいく。

まず、学校生活について述べる。私は、モスクワ国際関係大学という、ロシア国内でも有数の大学へ留学させていただいた。授業はロシア語の文法のクラスを受講した。10人ほどの少人数クラスで、フランス、イタリアなど様々な国からの留学生と共に学んだ。とても気さくで積極的な方が多く、親しみやすい雰囲気だった。主にロシア語と英語で進行し、初めは聞き取ることも大変だった。しかし、先生と生徒、生徒同士での対話が多く、実際にロシア語を話すことで自信もつき、授業になじめるようになった。実際に会話することで言語が身についていくものなのだと感じた。また、授業ではロシア人が日常的に使う言葉や熟語、有名な歌なども知ることができ、とても勉強になった。

続いて、ロシア人との交流について述べる。私は、毎週水曜日と土曜日におこなわれている、日本語を勉強しているロシア人と、ロシア語を勉強している日本人の勉強会”ボタニク“に参加した。15~20人ほどの人たちが集まり、お互いの文化や習慣について話したり、勉強で分からないことを聞きあったりした。文化の違いを感じたり、想像とは違ったロシアを知ることができ、興味深い話をたくさん聞くことができた。

最後に、ロシアで過ごした休日について述べる。

休日は観光とロシア語の勉強をして過ごした。中心地の街並みがとても美しく、すべ

てが新鮮だった。様々な美術館、博物館、教会をめぐり、ロシアの美術や歴史に触れることができ、貴重な体験ができた。また、ロシア人の友人からおすすめの場所を教えてもらったり、ほかの日本人留学生とも交流ができたなど、多くのひとと関わりながら充実した休日を過ごすことができた。

まとめとして、三か月という短い期間ではあったが、多くの人と関わり、たくさんの風景を見て、とても刺激を受けた。初めてといっても過言ではない海外で不安も多かったが、いろいろな人と協力し合い、人の優しさも感じられる充実した毎日だった。また、実際に現地に行くことで感じる空気感は自身の新たな考え方を生み出すことに繋がったと思う。今回の留学を機に、さらにロシアについて学んでみようと思えた。

最後に、このような素晴らしい経験をさせてくださり、多くの支援をしていただいた家族、大学、友人、そのほか関わっていただいたすべての人に感謝したい。

# モスクワ国際関係大学

## 交換留学報告書

モスクワでの約三か月に及ぶ留学はこれまでのロシアに対する見方や自身の価値観などを大きく変えるきっかけとなったと言えるだろう。また、同時にこれまでこの日本という国で暮らしてきた自分にとって、世界の大きさや多様な文化または課題等を実感させられる貴重な体験であった。またその留学生活においては、国籍を問わず多くの人たちに支えられて協力し助け合うことが多々あった。その中において、人として本当に大切なものは何であるかということを考えさせられることもあった。このように様々な新しい刺激があった留学生活の中で、健康で充実した日々を過ごせたことは本当に貴重であり、支えていただいた多くの方がたに感謝の気持ちを込めると共に、留学内容についての報告をさせていただきたい。

私の留学した大学はモスクワ国際関係大学という、ロシアにおいて国際関係や外交分野を専門とする有数の教育機関として有名であり、また様々な国から多くの留学生が訪れている国際色豊かな大学である。その授業では、私は留学生向けのロシア語文法やコミュニケーションを学ぶ授業を取っていたが、他に留学生向けに英語でおこなわれる授業も数多く存在しており、ロシアの歴史から安全保障や交通等、様々な分野を学ぶことができ、履修はしなかったものの聴講生として興味や機会があれば参加することもあった。そのような授業には、アメリカ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、中国、韓国、またトルコやイラクなど様々な国から多数の学生が参加しており各国の学生たちが互いにコミュニケーションを取り合い、積極的に自分達を発信しながら授業が進められていた。

その中で、一つ意識したことが他国ごとの留学生の数と比較しての総体としての日本人の少なさであり、外国においてはある意味当然なのかもしれないが、自分が少数派であることの不思議さがあった。というのも、これまで海外に一度たりとも出たこともなく暮らしてきた自分の中には、どこか何においても日本を中心軸として、無意識のうちに考えてきたという価値観のようなものがあったことに初めて気づかされた思いがしたのである。逆に他の国の学生と付き合っていると彼らもまた自分たちの国を軸として世界を見ているのだと感じられることもあった。そうした様々な価値観の中で様々な見方に対する面白さを感じるとともに日本人である自分を強く意識し、それがどの様な意味を持つのかという問いが生まれ、また考えさせられることになった。

このことは、授業の他で大学に隣接して建てられてある留学生用の学生寮での生活においても感じられることがあった。二人一部屋でのルームシェアであったり、毎日の食事を準備するさいに利用する共有のキッチンであったりと交流の絶えない生活環境は刺激的で充実していた。私のルームメイトはアメリカ人であり、英語での会話の他に、互いに不慣れなロシア語で、時に間違え合い、また教え合い学びながらコミュニケーションを取り、協力できたことは私の留学生活のなかで大きな喜びであったし、勉学への励みとなった。

また学外においては、毎週行われるロシア人と日本人の共同学習会にも積極的に参加し、

その中で日本語を学んでいるロシア人たちとの様々な交流と学びの機会があった。ロシア語の学習の他に、ロシアの文化や教育、また流行に関することまでいろいろな興味深い話を聞くことができ、またロシア語でのコミュニケーションを実践することのできる場であった。また逆にロシア人に日本語に関する質問や疑問を受けたりすることもあり新鮮な経験だった。

また学習の他には、各地の名所や美術館や博物館を数多く巡った。日本に比べ、公共交通機関の運賃が安く、また充実していることもあり休みの日には友人たちと様々な場所に出かけた。ある時はペテルブルクなど別の都市を訪れたこともあった。博物館などでは学生に対し割引や無料券があることもありがたかったが、なによりそれらの場所ではロシアの文化や歴史を学ぶことができた。

モスクワでの生活は驚きや発見の毎日で、戸惑うことも少なくなかったが、それも含めて楽しいという気持ちになれた。見知らぬ場所や人との出会いはなにより心を豊かにしてくれた。モスクワ市内を流れる豊かなモスクワ川と古い建物からなる街並みの景色にはいつも感動させられていた。また現地の人たちに助けをもらうこともあった。なんとなくそれまで抱いていたロシアは怖い、暗いといった漠然としたイメージはモスクワで暮らしの中で消えていき、当初は長いと考えていた三か月という期間は、過ぎてみるとあまりにも短く感じられる。今回の留学の中では色々な人達に助けをいただいた。多くの人達との出会いや新しい価値観に触れ、もっと世界に触れ考えることの大切さを学んだこの貴重な経験を、今度は自分が他の人たちの助けとなり支えとなれるように活かし努めていきたい。